

みんなで“まちを育てる”フォーラム 市民ワークショップ

平成26年12月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

かわら版

第1号



サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

宮古市では、現在、宮古駅南側に、防災・地域活力創出施設、市役所庁舎、保健センターの3つの機能を集約した拠点施設の整備を検討しています。

新たな拠点施設のあり方や、現在の市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイデアについて、特に若い世代の市民の皆さんの声を活かしながらいきたいと考えています。

そこで「みんなで“まちを育てる”フォーラム」という場を用意しました。この場で、これからの宮古のまちについて、ワークショップ形式で話し合っていきたいと思います。来年夏までの間に5回程度のワークショップを予定しています。皆さんの意見を、これからの宮古市中心市街地のまちづくりにぜひ活かしていきましょう！

11月29日 第1回市民ワークショップが開催されました

平成26年11月29日（土）14時より、市役所6階の大ホールで第1回目の市民ワークショップが開催されました。ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の49名の皆さんに参加していただきました。講演のみを聴いた方や見学者を含めると、70名近い皆さんに参加いただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。

<https://www.facebook.com/city.miyako>

弘前大学 北原啓司先生のお話 「“まち育て”のススメ」

ワークショップに先立ち、弘前大学の北原啓司先生による基調講演が行われました。タイトルは「“まち育て”のススメ」です。

これまでの「まちづくり」は、「つくる人」…つまり役所が主体で、市民は与えられたものをほめたり文句を言うだけの、形だけの参加でした。

でも、そのまちに暮らす市民の皆さんは、「つくる」プロではないですが、「食べる」側のプロです。「つくる」人と「食べる」人とが、お互いの役割を尊重しながら、新しい関係をつくっていくことが大事になります。

これからの高齢化の進む社会は、今ある資源を活用する時代です。そこで、自分たちのまちを「育てていく」という発想が大切になります。



復興のまちづくりに本当に必要な視点は、まちを「食べる人」の視点です。

まちを「食べる人」の武器がワークショップ。足を使い、目と耳を使って課題を見つけだし、自分たちの言葉で考え、創造する…そのための道具がワークショップなのです。

市民ワークショップ 各班での話し合いの様子



ワークショップの前半は、7つの班に分かれて各班ごとに話し合いを行いました。

今回のワークショップでは、活性化しているまち、賑わっているまちの様子をイメージするために、以下の3つの切り口で意見を出すことにしました。

- ①そのまちで自分がしてみたいこと
- ②そのまちで他の人がやっていること
- ③こんなまちはいやだ！

…これらについて、それぞれ色分けして、付箋紙に書き込み、模造紙に張り出しながら意見を発表していきました。

各班からの発表、北原先生のまとめ



その一方で、「こんなまちはいやだ！」という切り口では、バスや電車のアクセスの悪さ、歩道が整備されていない状況、案内サインの不備、街灯の不備、四年制大学がないなどの点が挙げられました。

最後に、北原先生に、たくさん出た意見をまとめてもらい、第1回ワークショップは終了しました。

次回の第2回ワークショップでは、今回のワークショップで示された「賑わっている街、活気がある街のイメージ」を実現するためのアイデアを出すことを目的として実施する予定です。

各班での話し合いの後、班ごとに意見内容を発表し、参加者で意見の共有をしました。

賑わっている街、活気がある街のイメージとして、若者が活躍できる街、子どもの声が聞こえる街、仮設に閉じこりがちの人が出て来なくなる街、つどえる場所、みんなで楽しめるイベント…といったイメージが示されました。

また、「いろいろないいもの、面白いものがあるのでもっと使えばいいのに…」ということで、鮭、面白い人、国立公園、レンタル自転車といったキーワードが出てきました。

第2回ワークショップのお知らせ

日時：12月20日(土)13～16時

場所：市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089



みやこちゃん